

日本人英語学習者による文中でのhoweverの位置の分析

出縄 貴良

了徳寺大学・教養部

要旨

howeverの位置は様々である。いくつかの辞書や文法書は、書き言葉においては文中で最もよく使われると記述している。JEFLC Corpusで調べた結果、日本人英語学習者のhoweverの使用がほとんど文頭であるということが分かった。本研究は英語母語話者と比較して、日本人学習者はhoweverを過度に文頭で用い、文中での使用が非常に少ないことを発見した。文頭での過度な使用の理由の一つとして考えられるのは日本語の干渉である。

本研究で日本の中学校と高等学校で用いられている教科書を調べたところ、そこでのhoweverの使用の多くが文頭であった。このことが日本語の干渉を助長する可能性を主張し、副詞について体系的に指導する必要があると結論付けた。

キーワード: コーパス, 語法研究, 応用言語学, however

An analysis of position of *however* in a sentence by Japanese learners of English

Takayoshi Denawa

Center for Liberal Arts Education, Ryotokuji University

Abstract

An adverb, *however*, could be placed in various positions in a sentence. Some dictionaries and grammar books indicated that in writing, it was common to use *however* in the middle of a sentence. The data from JEFLC Corpus showed that most of the Japanese learners of English wrote *however* at the beginning of the sentence. This study found that they overused it at the beginning of the sentence and underused it in the middle of the sentence. By comparison, the native English speakers used it more often in the middle of the sentence. One of the possible reasons for this was Japanese interference.

In this research, the Japanese middle and high school English textbooks were studied. The research revealed that *however* was mostly used at the beginning of the sentences throughout those textbooks. In summary, the Japanese students might be influenced by those textbooks. As a result, the students preferred to put *however* at the beginning of the sentence. It would be beneficial to teach the students about the various functions of adverbs including *however* to enhance their writing skills.

Keywords: corpus, phraseology, applied linguistics, *however*

I. はじめに

英語において逆接を表す最も基本的な語はbutとhoweverであると言えるだろう。これらの語は意味的には大きな違いがないが、butは接続詞でありhoweverは副詞であるため統語的には大きな違いがある。howeverは副詞という性質上文章中での位置が柔軟であり、文頭・文中・文末に現れることができる。しか

し日本人学習者（以後、学習者と表記）はhoweverを文頭の位置で使用する傾向が非常に強いように感じる。本研究ではコーパスⁱによるデータからこのことを客観的に示し、その原因を考察する。

Ⅱ章では辞書や文法書を含む先行研究を参照しhoweverの語法と日本語の干渉について概観する。Ⅲ章ではコーパスからのデータを用いて学習者と英語母語話者（以後、母語話者と表記）が使用するhoweverの位置を比較する。使用したコーパスはJapanese EFL Learner Corpusⁱⁱ（以後JEFLと表記）、British National Corpusⁱⁱⁱ（以後BNCと表記）、Corpus of Contemporary American English^{iv}（以後COCAと表記）の3つである。Ⅳ章では日本の中学校と高等学校で採択されている教科書のhoweverの記述を分析し、Ⅴ章で結論を述べる。

Ⅱ. 先行研究

1. howeverの位置

howeverに関しては、副詞であるためbutのように2つの節を接続することはできないということと、文頭・文中・文末いずれにも用いられるということはどの辞書や文法書にも共通する見解である。しかし辞書によってhoweverの位置は、文頭を基本とするもの¹⁾や先行文の意味内容全体を対比する場合は文頭あるいは文末を普通とするもの²⁾もあれば、通例は文中で用いるとするもの^{3,5)}もあり、位置に関しての記述は一致していない。

文法書の記述も一貫しているとは言えない。Peters⁶⁾は書き言葉では主語の直後の位置が一般的であるとし、小西⁷⁾は「…その直前で述べられた文意と常識的には整合性を欠くと思われる事実を提示する場合や、前の文と後続の文との意味的調整を図るために用いられる。その場合、howeverは後の文の文中で用いられることが多い」としているが、Butterfield⁸⁾はhoweverの位置はそれが現れる文の性質により、唯一正しい位置というものはないと述べている。

辞書においても文法書においても、howeverの位置については一貫しておらず、一般化することの難しさがうかがえる。特に位置による違いを述べていないものもあったが、筆者が調べた限りでは、書き言葉においては文中で使われることが多いと記述するものが最も多かった。ピーターセン⁹⁾も洗練された英文ではhoweverは文中に置かれることが圧倒的に多いと述べている。

2. 日本語の干渉

英語学習において、学習者が日本語の影響を受けるということが指摘されてきた。Sugiura¹⁰⁾は、日本語では「だから」「そして」「しかし」などの接続詞が通常文頭に置かれることが多いという特徴が、英語にも転移（干渉）し、学習者は不必要な等位接続詞を文頭に置くと述べている。ピーターセン¹¹⁾は、学習者がhoweverを文頭で使う理由として日本語の「しかし」や「ところが」の使い方に引きずられているからではないかと指摘している。また、堀¹²⁾は英語コロケーションの研究において、日本語の干渉により起こりうる誤りを想定し、「あらかじめ正用と誤用の一覧表を作成し学習者に示しておくことは学習効率の面では必要ではなかろうか」と述べている。他の品詞でも日本語の干渉の強さは指摘されており、例えば学習者が英語の接続詞を過度に文頭で用いることについて、「学習が進むにつれて文頭に用いる接続詞が減少する」という研究¹³⁾に対し、立川¹⁴⁾は「その理由は「従属節単体文」の数が減少することが理由であり、because節の前置の割合は学年が上がっても全く変わっていない」と述べている。

howeverは「しかしながら」という日本語訳を与えられることが多い。上述の通り日本語の干渉が強いということと、このhoweverの日本語訳から、学習者がhoweverを文頭で使用するだろうということは容易

に予測される。また実際に学生が書いた英文を見ていてもそのように感じる。次章ではコーパスから得られたデータを基に客観的な分析を行う。

Ⅲ. データの分析

1. 文頭・文中・文末という用語について

本章では、コーパスから得られたデータを基にhoweverの位置を分析する。つまりhoweverが文頭・文中・文末のどの位置で用いられるかということであるが、どの位置を文頭・文中・文末とするかということはそれほど簡単なことではないように思われる。データの分析に入る前に、本研究における文頭・文中・文末の捉え方を明示しておきたい。以下に例文を挙げる。

- (1) … Mr Ryzhkov said. **However**, his own plans rely on strengthening the central system.
- (2) In an appendix he adverts to an article in which an alternative view was proposed; **however**, he addresses none of the very real objections to the ‘high pitch’ theory evinced there, …
- (3) In the examination, **however**, Molla Yegan confounded his critics and made his judgment stick.
- (4) As soon as he saw her again, **however**, he knew he was as much in love with her as ever, …
- (5) The problem is, **however**, that real history rarely conforms to later stereotypes.
- (6) The chain of events does have links with the age of the wheel thing, **however**.
- (7) The constant activity did serve one positive purpose, **however**: it had kept me from thinking.
- (8) There is still room to get half or three-quarter sized cards in **however**, so this does not present too much of a problem.

(例文は(7)はCOCAから、それ以外はBNCから。以降例文中の太字は筆者)

まず文頭であるが、(1)のようにHoweverと大文字で始まっているものが該当する。howeverは二つの文を対比する際に、(2)のように前の文をピリオドではなくセミコロンで終え、howeverが続くということがある。これを文中と分類している研究¹⁵⁾もあるが、実質的に前の文はセミコロンで終わりhoweverは二文目の文頭にあると考えられるため、本研究ではこの場合も文頭と分類する。

(3)～(5)が文中の例である。(3)では前置詞句が、(4)では従属節が文頭にあり、その後にhoweverが来ている。これらの場合howeverを前置詞句や従属節の前に置くことも可能であるため、文中と分類する。(5)は一つの文の中にhoweverが埋め込まれている文中の典型的な例である。

文末は(6)のようにhoweverの後にピリオドが来ているものが基本であろうが、(7)のようにピリオドではなくコロンやセミコロンが来ても文末と考える。また、(8)のように一見すると文中にあるように見えるが、二つの文が接続詞でつながれており、一つ目の文の終わりの位置と考えられるものも文末とする。

2. 学習者のhoweverの使用

I章で「学習者はhoweverを文頭の位置で使用する傾向が非常に高いように感じる」と述べた。これについて客観的に証明するために、JEFLLを用いた。JEFLLは日本人の中高生1万人の英作文コーパスである。作文であるため、その性質は書き言葉である。

howeverを用いた文は197例あり、そのうち逆接の副詞ではないものが4例、誤って接続詞として用いてしまっているものが15例であった。よって197例から19例を引いた178例が分析対象である。その178例を

howeverの位置で分類した結果が表1である。なお、この数値からはhoweverを接続詞として用いないというルールは大抵の学習者に身に付くものと判断できそうである。

表1. JEFLLにおけるhoweverの位置と使用数^v

howeverの位置	使用数	%
文頭	158	88.8
文中	17	9.6
文末	3	1.7
合計	178	100.1

表1のデータより学習者がhoweverを文頭で使用する傾向が非常に高いということが裏付けられた。Ⅱ章で、書き言葉においてはhoweverは文中で用いられるという意見が優勢であることを述べたが、そのことから判断すると、学習者はhoweverの文中での使用が少なく、過剰に文頭で用いていると考えられる。しかし、辞書や文法書の中には、howeverは文頭・文中・文末で用いることができると記述するだけで、特に位置の指定をしていないものもある。このことから、howeverの位置について記述することはそれほど簡単ではないということがうかがえる。そこで次節では、比較のため母語話者のhoweverの使用を見ることにする。

3. 母語話者のhoweverの使用

ここではBNCとCOCAからのデータにより母語話者のhoweverの使用傾向を提示する。BNCはイギリス英語、COCAはアメリカ英語のコーパスである。ランダムで200例ずつを検索した^{vi}。そこから該当しない例を除くと、BNCは195例、COCAは192例が分析対象となった。howeverの位置をカウントしまとめたものが表2と表3である。

表2. BNCにおけるhoweverの位置と使用数

howeverの位置	使用数	%
文頭	98	50.3
文中	89	45.6
文末	8	4.1
合計	195	100

表3. COCAにおけるhoweverの位置と使用数

howeverの位置	使用数	%
文頭	100	52.1
文中	84	43.8
文末	8	4.2
合計	192	100.1

まず非常に興味深いことは, howeverの位置に応じた使用数に関して, 今回の検索結果ではイギリス英語でもアメリカ英語でもほとんど同じ割合を示しているということである. しかし今回の検索結果からは, howeverは文中で用いられることが多いとは断言できないようである. Orhonら¹⁶⁾は, 書き言葉のコーパスであるBritish Academic Written English Corpusでhoweverの位置を調べ, 100万語当たりの割合として文頭60.3%・文中39%・文末0.55%と算出している. この割合は本研究の表2と表3のものと大きな違いはなく, 文頭の使用率が最も高いという結果になっており, 本研究で用いるデータは信頼できると判断できそうである.

今回の母語話者のhoweverの使用の分析結果を簡潔にまとめると次のようになる. イギリス英語でもアメリカ英語でも使用分布にほとんど違いがなく, 文頭での使用が最も多く全体の半数を占めている. 次いで文中での使用が多く, こちらも40%を上回り半数近くにまで達している. 文末での使用は非常に少なく全体の4%程度である. 今回の結果だけを踏まえると, howeverは文中で最もよく使用されるとは言えないようである.

学習者のhoweverの使用数が文頭>文中>文末となっていることは母語話者の使用分布と同じである. しかしそれでも学習者の文中での使用数の少なさも顕著であり, 母語話者のような自然な使い方はできていないようである.

IV. 教科書の分析

前章において, 学習者がhoweverを用いる際には母語話者と比べて文頭での使用が非常に多く, 文中での使用が少ないということを見た. これについての説得力のある理由の一つは, II章で挙げた日本語の干渉であろう.

しかし, 日本語の干渉という観点から学習者がhoweverを文頭のみで用いるだろうということが予測できるのであれば, 文中や文末での使用をしっかりと教えればよいはずである. では, 学校ではどのようにhoweverを教えているのだろうか. 東京都の公立中学校と公立高等学校で採択されている教科書を調べた^{vii)}. 中学校の教科書でhoweverを扱っていたのは6社中4社で, 中2が初出の場合と中3が初出の場合があった. 14例の使用を見つけることができたが, この全てが文頭での使用であった. 以下にその一例を挙げる.

(9) However, some people climb the rock.

(10) However, he asked a lot of questions every day.

(11) However, for nearly 170 million children under 18 years old around the world, school is only a

dream.

(12) **However**, when they saw the men on the ship, they were afraid of those men.

中学校の教科書で出てきたhoweverの多くは(9)や(10)のようにシンプルな文の文頭に置かれているものであった。しかし(11)や(12)のような例も見られ、必ずしも全てのhoweverを文頭に置かなければいけないという状況ではなかった。

高等学校の教科書では160例を見つけることができた。その結果は表4の通りである。

表4. 高等学校の英語教科書におけるhoweverの位置と使用数

howeverの位置	使用数	%
文頭	128	80
文中	27	16.9
文末	5	3.1
合計	160	100

中学校の教科書とは違い、文中や文末での使用が見られるようにはなった。それでもやはり文頭での使用が非常に多く、母語話者の使用実態を反映した自然な英語とは言えず、むしろJEFLから得た学習者の割合に近い「日本人らしい」英語となっている^Ⅲ。以下にいくつか実例を示す。

(13) **However**, it is too expensive.

(14) … to equip the ship with 48 lifeboats; **however**, in order to reduce the costs of building the ship, the owners of the Titanic decided to give it only 20 lifeboats.

(15) **However**, in Japan, only 3.6% of our energy comes from these sources.

(16) For higher temperatures, **however**, the time dropped dramatically, down to 40 minutes for water at 80℃.

(17) They are, **however**, long enough to have bedrooms, kitchens, and bathroom in them.

(18) His experiment worked, **however**.

文頭でhoweverを用いるということ自体は正しい使い方であるため、教科書の文が間違っているということではない。しかし、自然な英語であれば、howeverは少なくとも3回に1回は文中での使用になることを考えると、教科書の英文がバランスの取れた自然な英語であるとは言えない。このような英語を提示することは日本語の干渉により拍車をかけてしまうのではないだろうか。つまり、英語のhoweverは日本語の「しかしながら」と同じで文頭でのみ使うという誤解である。

この点を考慮すると、Ⅲ章2節で「howeverを接続詞として用いないというルールは大抵の学習者に身に付くものと判断できそうである」と述べたが、再度検討する必要があるかもしれない。学習者が形式と機能の複雑な関係を1対1対応で単純化する傾向が指摘されているからである¹⁷⁾。学習者がhoweverは副詞であ

るからbutのように文をつなぐことができないと理解しているのではなく、howeverは前の文をピリオドで止めて次の文の頭に置くと単純化して覚えている可能性がある。これでは副詞としての機能をしっかりと理解できているとは言えない。

そして副詞の機能をしっかりと理解できていないということは更なる問題を引き起こす可能性がある。英語にはhoweverと同じような性質の語がたくさんあるからである。for exampleやof course、そしてnaturallyのようなlyで終わる副詞の中には、日本語では文頭に置くが、英語では文中に置いた方がふさわしいものがある^{ix}。これらは相互に関係しており、日本語とは切り離してhoweverを副詞として正しく理解し、文頭以外でも用いることができれば、その他の副詞も正しく用いることができるであろうし、逆にその他の副詞を正しく用いることができていればhoweverの文中での使用頻度も上がってくるであろう。

これまで見てきた通り、日本語の干渉は強力である。しかし、だからこそ学習者が習得しづらいことはある程度の予測がつき、そういったことを補う教科書であることが望ましい。学習者がBecause節を文頭で過度に使用するという一般化を行ってしまっていることについて、立川¹⁹は教科書の編集の再考の余地を示唆している。教科書が実際の英語の使用を反映していないことは問題である。確かにhoweverだけを考えれば、文頭で用いておけば誤りにはならないが、それは母語話者の使用とは異なっているし、日本語の干渉を助長するだけである。母語話者の使用に即した英語を提示し日本語と切り離れた学習を行うことが全体的な英語力の向上につながるはずである。

V. 結論

howeverの位置に関して、辞書や文法書では見解が一致しているという訳ではないが、書き言葉では文中で用いられることが多いという記述がいくつか見られる。それに対し学習者はhoweverを文頭で用いる傾向が強い。しかしながら母語話者の使用を調べてみると、学習者と同じで文頭>文中>文末の使用となっており文頭での使用が最も多かった。

学習者と母語話者のhoweverの位置の頻度順が同じであったとはいえ、学習者の文中での使用の少なさは際立つものであった。この理由として、日本語の干渉が考えられる。投野²⁰が述べているように、日本語の干渉に対しては丁寧な矯正が必要である。しかし、中学校と高等学校で使われている教科書内でのhoweverの位置を調べてみると、文頭での使用が非常に多く母語話者の使用を反映した自然な英語であると言え難かった。

この結果から、多くの学習者がhoweverを副詞として正しく理解しているわけではなく、作文の際には前の文をピリオドで終え、次の文の頭に大文字で始めたHoweverを置けばよいという単純化を行っている可能性が示唆される。なぜこの単純化が問題であるかということ、副詞の理解の妨げになるからである。日本語では文頭に来るが、英語では文中で用いた方がよいとされる副詞がいくつも存在する。日本語とは切り離し、自然な英語に即してこのような副詞類を体系的に学習することが英語力向上につながると考える。

指導者は、学習者のhoweverの文頭での使用に関して、間違えているわけではないからよしとはせずに、日本語干渉による単純化の可能性を自覚しておく必要があるだろう。さらに、学習者個々のその他の副詞の使い方を観察すれば、副詞についての理解度が把握できるだろう。そして、こういった副詞が日本語とは異なり、文中や文末でも使われるということを体系的に指導することが大切である。本研究が教育現場での指導の一助となれば幸甚である。

注

- i ここでは特に電子コーパスのことであり、言語分析のために電子化された言語資料を集積したものである。任意の語や句を検索することで、それらが実際に用いられた英文を表示してくれる。
- ii 東京外国語大学の投野由紀夫先生を中心として構築された中高生の英作文コーパス。検索ツールは、JEFLLのweb検索システム（小学館コーパスネットワーク）を利用した。
- iii 書き言葉9千万語と話し言葉1千万語の1億語からなるイギリス英語のコーパス。
- iv 1990年から2019年の間の現代アメリカ英語からなる10億語を超えるコーパス。
- v 表中の%は全て小数点第二位を四捨五入している。そのため合計が100にならないものもある。
- vi 本研究で扱っているのは書き言葉であるため、レジスターはfiction, magazine, newspaper, academicに絞った。
- vii 中学校の教科書は6社のもの3学年分の計18冊を扱った。高等学校の教科書は「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」の5科目を対象とし、それぞれの科目毎に採択数の高い3冊を扱った。ただし、「コミュニケーションⅡ」では採択数三位のものが2冊あったため、2冊とも用いた。よって高等学校の教科書は16冊を調査対象とした。
- viii JEFLLは2007年に公開されたデータであり、現在の学生の状態を反映したものではないが、現在の教科書でも文頭での使用が非常に多く、文中での使用が少ないことから、現在の学生も大きな違いがあるとは考え難い。
- ix ピーターセン¹⁸⁾は以下の例を挙げ、太字の語句に関して、文頭に置くよりも例文中の位置に置いた方がより洗練された文になるとしている。
 - (a) Heart attack patients owning pets, **for example**, recover more quickly than those without pets.
 - (b) That is not necessarily, **of course**, always the case.
 - (c) Some doctor, **naturally**, still employ only conventional therapies.
 - (d) The new therapy is, **obviously**, the most effective.

引用文献

- 1) 野村恵造, 花本金吾, 林龍次郎編 (2016) オーレックス英和辞典 第2版新装版. 旺文社, 東京. 954.
- 2) 南出康世編 (2014) ジーニアス英和辞典 第5版. 大修館書店, 東京. 1044.
- 3) 八木克正ほか編 (2004) ユースプログレッシブ英和辞典. 小学館, 東京. 903.
- 4) 山岸勝榮編 (2015) スーパー・アンカー英和辞典 第5版. 学研プラス, 東京. 850.
- 5) 宮井捷二, P. E. Davenport, 三省堂編修所編 (2017) グランドセンチュリー英和辞典 第4版. 三省堂, 東京. 770.
- 6) Peters, P. (2004) The Cambridge Guide to English Usage. Cambridge University Press, Cambridge. 255.
- 7) 小西友七編 (2011) 現代英語語法辞典 小型版. 三省堂, 東京. 228.
- 8) Butterfield, J. ed. (2015) Fowler's Dictionary of Modern English Usage, Fourth Edition. Oxford University Press, Oxford. 385.
- 9) マーク・ピーターセン (2013) 実践 日本人の英語. 岩波書店, 東京. 213.

- 10) Sugiura, M. (2002) Collocational Knowledge of L2 Learners of English: A Case Study of Japanese Learners. English Corpus Linguistics in Japan. NY, Brill Rodopi. 315.
- 11) マーク・ピーターセン (2013) 実践 日本人の英語. 岩波書店, 東京. 213.
- 12) 堀正広 (2009) 英語コロケーション研究入門. 研究社, 東京. 47-48.
- 13) 投野由紀夫 (2007) 日本人中高生一万人の英語コーパス. 小学館, 東京. 93.
- 14) 立川研一 (2020) 日本人初級英語学習者のWritingにおける'because'の使用傾向. 大分大学教育学部研究紀要. 41(2), 306.
- 15) Orhon, Y., Kulac-Puren, D., Guzel, E. (2018) A Corpus Linguistic Study on the Use of However in British Academic Spoken and Written English. The Literacy Trek. 4(2), 41.
- 16) Ibid., 38.
- 17) Fujiwara, Y. (2003) The Use of Reason-Consequence Conjuncts in Japanese Learners' Writing English. English Corpus Studies. 10, 100.
- 18) マーク・ピーターセン (2013) 実践 日本人の英語. 岩波書店, 東京. 214-216.
- 19) 立川研一 (2020) 日本人初級英語学習者のWritingにおける'because'の使用傾向. 大分大学教育学部研究紀要. 41(2), 308.
- 20) 投野由紀夫 (2007) 日本人中高生一万人の英語コーパス. 小学館, 東京. 93.

<コーパス>

JEFL: Japanese EFL Learner Corpus <<https://scnweb.japanknowledge.com/JEFL2/>>

BNC: British National Corpus <<https://www.english-corpora.org/bnc/>>

COCA: Corpus of Contemporary American English <<https://www.english-corpora.org/coca/>>

<教科書>

・中学校教科書 (全て1年生から3年生までのものを使用)

COLUMBUS 21. 光村図書, 東京.

NEW CROWN. 三省堂, 東京.

NEW HORIZON. 東京書籍, 東京.

SUNSHINE. 開隆堂出版, 東京.

TOTAL ENGLISH. 学校図書, 東京.

ONE WORLD ENGLISH COURSE. 教育出版, 東京都.

・高等学校教科書

「英語表現Ⅰ」

Revised Vision Quest Advanced. 啓林館, 大阪.

Revised Vision Quest Standard. 啓林館, 大阪.

SELECT New Edition. 三省堂, 東京.

「英語表現Ⅱ」

be. いいずな書店, 東京.

Vision Quest Ace. 啓林館, 大阪.

Vision Quest Hope. 啓林館, 大阪.

「コミュニケーション英語Ⅰ」

All Aboard!. 東京書籍, 東京.
Revised COMET. 数研出版, 東京.
VISTA New Edition. 三省堂, 東京.
「コミュニケーション英語Ⅱ」
All Aboard!. 東京書籍, 東京.
Power On. 東京書籍, 東京.
Revised COMET. 数研出版, 東京.
VISTA New Edition. 三省堂, 東京.
「コミュニケーション英語Ⅲ」
All Aboard!. 東京書籍, 東京.
MY WAY. 三省堂, 東京.
Revised ELEMENT. 啓林館, 大阪.

2020年12月25日 受理
了徳寺大学研究紀要 第15号